

その業

唯一にして

無二

ここに集いしは

武将たちの

誇りと魂

国内シェア80%〜90%を誇る甲冑製作のバイオニアそれが「甲冑工房丸武」

本市湯島町にある「甲冑工房丸武（丸武産業株式会社）」。

昭和33年に釣りざおメーカー「丸竹産業株式会社」として設立した社は、創立者である田ノ上忍氏が、趣味で集めていた甲冑の修理を繰り返していきうちに得た知識と技術を産業化し、48年に甲冑製造業へと転業しました。

当時、映画などでは本物の甲冑が使用されていましたが、丸竹産業が製作したレプリカの採用により、一つの作品に多くの甲冑を登場させることができるようになり、大幅に軽量化されたレプリカが、演者の負担軽減にも貢献しました。

それから、大河ドラマや黒澤映画に次々に採用されると、丸竹産業の名は業界内に響き渡り、ついには国内で90%以上(当時)のシェアを誇る一大企業へと成長を遂げました。

平成2年には、製作した甲冑の展示館「川内戦国村」をオープン、9年には、鹿児島県知事から「県伝統的工芸品」の指定を受けます。

そして、平成18年には、社名を「丸竹産業株式会社」の「竹」の字を武士の「武」へと改め、現在の「丸武産業株式会社」と変更しました。

見る・学ぶ・体験する・買う・食事する

5つの要素で迎える

テーマパークの誕生

令和元年、「川内戦国村」がオープン後、30年が経過し、老朽化していることに鑑み、3代目に就任した田ノ上智隆氏の発案で、「川内戦国村」は、「甲冑工房丸武」へと生まれ変わりました。

「甲冑工房丸武」は、これまで有料だった入場料を「無料」としました。そこには、家族など多くの人にも負担なく見てもらえるようにとの願いが込められています。

そして、これまで「見る」ことが主流だった展示館から、作業工程を見学することができる「学ぶ」射的場でコルク銃などで遊んだり、製作された甲冑を実際に着用する「体験する」、丸武の技術で製作したお土産品などを購入する「買う」、そして、お食事処でうどんなどを堪能する「食事する」を加えた5つの要素で展開します。